



嬉泉の新聞 第75号 2017年（平成29年）3月発行
発行＝社会福祉法人嬉泉
東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156-0055）TEL 03-3426-2323
http://www.kisenfukushi.com E-mail: kisen@kisenfukushi.com

社会福祉法人嬉泉 創立50周年を迎えて

社会福祉法人嬉泉 理事長

医療法人社団嬉泉会 理事長 須藤 祐司



創立50周年を迎えた社会福祉法人嬉泉は、私の父でもある故須藤晃弘前理事長と故石井哲夫先生が共につくり上げてきました。石井先生の現場で考えて実践に活かせる良い環境を実現させたいという思いが、父

と出会って嬉泉として構築されたのです。そもそもは日本女子体育大学に在学中だった私の妹が授業で石井先生の「自閉症の施設が日本にはまだないけれども是非ひろげたい」という自閉症に対する熱い思いを伺い、それを妹が父に伝えたことからでした。父の何か社会にお役に立てることができればという気持ちが、石井先生にお会いしてその情熱に感銘を受け、昭和40年の財団設立となりました。その翌年に社会福祉法人になり、持っていた土地と寄付金を提供し子どもの生活研究所が創設され、父が理事長に就任しました。父は任せたら口を出さない。それが良いところです。子に対しても同様に結構任せられる方は責任を感じますが、父は人を育てるのが上手だったと思います。

父は商売上手でもありました。東大の野村先生の助言で食べ物商売がいいと戦後お煎餅屋を始めました。その利益で買った土地の一つが子どもの生活研究所の土地です。でも父は子どもには「美田」を残さなかった。財産は残さない、残すのは教育だけ。儲けたお金は福祉法人嬉泉や病院に全

部つき込み、自分で生き方を決めなさいと考え方がさばさばしている。その考え方に至った一番は、やはり石井先生とめぐりあったことでしょう。石井先生のお手伝いができたことが父の幸せだったと思います。父はいつも私に、「世に生を得るは事を為すにあり」（坂本龍馬）と言っていました。そして私利私欲なく、収益は世のため人のために還元しなさいとも言っていました。昭和50年袖ヶ浦の土地も全部福祉法人嬉泉に寄付し法人名義となりました。

前理事長でもある父が昭和63年6月に亡くなり、私が理事長に就任しました。創設の当時から関わり、状況も把握していますが、本日に至るまで石井先生と皆さんのお力が全てです。

石井先生のすばらしいのは、現場の中での実践を重んじていたことです。現場で子どもたちと共に暮らして、子どもたちの特性を見抜いて自立を促す、それがすごいと思います。石井先生は本当に稀代な人物です。将来のことを思って本当に最後まで職員へのスーパービジョンをされていたと伺っています。

社会福祉法人嬉泉は、石井先生が亡くなられ石井啓常務理事が就任し、50周年を迎えられるのは業務内容の充実と健全経営の努力があつてのことです。石井先生は本当に子どもが大好きで、子どもたちが立派に自立して社会参加することがお望みでした。職員のみなさんには是非石井先生の熱い思いを継いでいただきたいと思います。

社会福祉法人嬉泉の平成二十九年の基本方針

社会福祉法人嬉泉 常務理事 石井 啓

法人理念

私たち社会福祉法人嬉泉は、法人理念として、「ミッシヨン」の「支援方針」の三つの柱を立て、各事業を實踐してきます。目指す方向性となすべきこととしての「ミッシヨン」は、日々の生活の中で、支援される人も支援する人も皆、自分らしさを發揮し、それを認め合える「誰もが自己實現し得る共生社会の實現」であり、そこに向かうにあつた「支援方針」は、石井哲夫前常務理事が積み重ねてきた実践である、利用者を尊重し、表面的な言動だけでなく、思いを汲み取り理解して関わる「受容的交流による利用者支援」です。さらに、それを實際に遂行するにあたり、組織の管理運営に必要な「経営方針」は、「明確なコーポレートガバナンスに基づく法人経営」です。組織体制がはっきりしており、役割分担が明確で責任の所在が明らかになっていることがとても大事だと思ひます。

支援方針

今までにもお伝えして来たことですが、近年、わが国における自閉症（発達障害）支援の潮流としては、「構造化」及び「応用行動分析」といった所謂「Evidence based」な支援技法がメインストリームとなつてきています。それらは大事な支援技法であり、嬉泉においても現に構造的な対応も行なつています。しかし一方で、客観的に表現できない人の気持ちや思いなどは、その理解において、支援者側の主観が入らざるを得ず、そうした支援者の感覚的な理解は証明根拠がないという理由で、否定されてしまう事も多いように感じています。そして、それでは利用者の本當のニーズに辿り着かないのではないかと思ひます。そこで残念ながら傍流に追いやられつつありますが、本法人の標榜する、利用者の内面を重視し援助者との人間関係で支えるという「受容的交流の立場に立つ援助」の實踐を、社会に向けて発

信していかなければならないと思ひています。

そこで新年度は、前年度に引き続き、各事業所の援助實踐を「受容的交流」の立場から検証し、その有効性に立脚した必要性を対外的に発信していきたいと思ひます。具体的に「法人内学会」とも言うべき實踐研究の研鑽の場を作り、事業所間については拠点間の垣根を越えた事例検討を通じた職員同士の「受容的交流」を促進していきます。

経営方針

本法人は、平成二十九年に創立五十一周年を迎えます。新年度からの新規事業として、世田谷区鎌田四丁目に整備する認可保育所「鎌田のびやか園」の開設を四月に控える一方で、世田谷区発達障害相談・療育センター（げんき）及び各発達相談センターの運営について、前年度に行われた指定管理者の選定に漏れ、それらの運営から離れることとなりました。そうした曲折がありつつも、事業数（本部を含む）は二十七を数え、この仕事に従事する職員は、常勤者三百六十一名、非常勤者百六十四名、総勢五百二十五名（平成二十九年一月一日現在）という陣容を備えるに

至っております。

そして五十周年という節目の年を経て、記念事業（後記）を實施いたします。

また、前年度から引き続き社会福祉法の改正に対応します。改革のポイントに即した具体的な計画は、次の通りです。

① 経営組織のガバナンスの強化として、「新たな評議員会」の設置と執行部としての理事会及び執行本部の機能化を図る。

② 事業運営の透明性の向上として、「情報公開規程の整備」とそれに基づく情報開示を實施する。

③ 財務規律の強化として、今回は猶予措置のとられた外部監査の導入を、三年後の施行に向けて予備調査の實施を検討する。

④ 地域における公益的な取組として、各拠点単位の社会貢献活動を明確化し實踐する。

更に前年度より組織した法人業務執行体制である「執行本部」は、上記に加えて次の課題に取り組むために更なる改編を行います。

- ① 経営的意思決定機能の強化
- ② 人材育成機能の強化
- ③ ①については新規事業の検討や既存事業の経営分析、資金運用等、②については、採用活動に始まり、人

員配置、人事考課、研修計画管理等であり、それら各拠点に散在する情報を法人全体で一元化し、きめの細かい経営を行うことが出来るように機能化します。そのために必要な人材を法人本部に結集し、実体のある執行本部を構築します。

法人業務執行体制

通常事業における業務執行は、従来どおり基本的に同一エリア内にある複数の施設・事業所から成る「事業拠点」を運営単位とし、その事業場の長である場長の責任のもとで運営を行います。拠点を越える法人全体の事業については、上記の「執行本部」により業務を執行します。執行本部は、法人業務の企画立案を主体的に行うために常務理事を中心に法人内部理事で組織する「執行役員会」と、その執行役員会の企画立案に基づく法人業務の具体的な執行における検討と意思決定を行うために全事業拠点の場長が参集する「場長会」とから構成しますが、本年度から新たに執行役員会直属の「経営管理室」を設置し、上記の機能強化に対応します。また、執行役員のうち人事業の統括責任を持つようにしま

す。

場長会における法人業務執行体制としては、これも引き続き「研究啓発局」「本部事務局」の二局体制を以てあたります。この二局体制は、従来の「法人の係」や諸委員会を包摂し、それぞれの担当責任において、それらの業務を掌理します。

以下、二局及び「経営管理室」の概要を示します。

- 1、経営管理室
 - ① 採用人事
 - ② 人材育成管理
 - ③ 新規事業検討
 - ④ 関連団体対応
 - ⑤ 外郭団体対応
 - ⑥ 経営分析・資金運用
- 2、研究啓発局
 - ① 自閉症実践療育セミナー運営係
 - ② 全体研修企画係
 - ③ 学会活動対応係
 - ④ アウトス運営係
 - ⑤ 広報委員会
 - ⑥ 援助理論・技術研究開発委員会
- 3、本部事務局
 - ① 理事会・評議員会開催事務係
 - ② 規程整備検討委員会
 - ③ 法務対応係
 - ④ 予算決算編成係
 - ⑤ 契約・資産管理係
 - ⑥ パザー実行委員会

- ⑦ 内部統制委員会
- ⑧ 災害対策委員会
- ⑨ 事故防止委員会
- ⑩ 情報セキュリティ委員会
- ⑪ 人権擁護委員会(虐待防止委員会)
- ⑫ 善情解決委員会
- ⑬ 名簿作成委員会
- ⑭ 福利厚生検討委員会

法人創立五十周年記念事業

法人創立五十周年を記念した記念式典を、外部の方々をお招きして以下の通り行います。

・日時 平成二十九年九月十四日(木)
午後三時
・場所 ホテルオークラ東京

記念式典の詳細につきましては、今後、お知らせいたします。

また、式典に合わせ、記念紀要を作成いたします。内容につきましては、嬉泉の「療育」・「保育」・「相談」の三分野について、それぞれの実践に基づき、嬉泉の考えを示すというコンセプトですが、今回は、実践例をあげていくというよりは、理論的な部分を強調して纏めていく予定です。そこに嬉泉と関係の深い方々から、応援メッセージをお寄せ頂き、

それらを一つにして編集する予定です。記念式典にて、皆様にお配りしたいと思っておりますので、ぜひ、ご高覧頂ければ幸いです。

~~~~~ \* ~~~~~

平成二十九年度も、職員の力を合わせて、以上の事に取り組んで参ります。今後とも、どうぞ皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。



第五十二回嬉泉バザー報告

平成二十八年十月三十日（日曜）日、世田谷区の子どもの生活研究所において、第五十二回嬉泉バザーが開催されました。当日は、八百三十名を超える大勢の方々にご来場いただき、盛況の内にバザーを終えることが出来ました。

嬉泉バザーは法人設立当初から、民間事業者として独自の資金確保をおこなうことを目的として、開催してきました。そして石井哲夫前常務理事（故人）は、地域の皆様や私どもの事業にご協力いただいたり、方々との交流をとっても大切にしており、バザーもその大切な機会と考えてきました。法人内の事業所職員が気持ちを揃えて、協働し、もてなしの気持ちや気配りを意識しながらお客様を迎えることも、支援者としての日々の支援に繋がる大事な心得として教えられたことも覚えていきます。

今年度バザーを開催するにあたり法人のバザー企画委員会でバザーの方向性を確認し、その後子どもの生活研究所で場長や園長達で集まりました。ここ数年は人材育成を考え、若いリーダーが各責任を担っていましたが。しかし今回は各園長達が自ら

部門責任者となり、リーダーシップを取りながら自発的にバザーの企画運営に関わり、これまでの伝統の継承と、新しいアイデアを加えた今年のバザーを作りあげようと動き出しました。

法人本部がある子どもの生活研究所をより多くの人に知ってもらい、身近な地域の方々との交流を深めていくことを考え、昨年に引き続き、新聞の折り込みチラシを抽選券付きのものとし、呼び込みをしました。そして事前に地域の防災運動会に職員が参加し、バザーの案内もしました。子どもの生活研究所がある千歳



船橋のイベントで人気の「チトフナマン」の出演も、「子どもがファンで」というお母さまからの問い合わせがあるなど、当日を賑わせ大人気でした。食堂部門は小学生がワンコインで買いやすいメニューを企画し、食材は保護者の方や日頃給食でお付き合いのあるお店からの御寄附が多くありました。また販売部門でも手の込んだ刺し子や縫い物製品は保護者の方々に大変お世話になりました。感謝の気持ちで一杯です。また後援会コーナーは、職員や保護者が一緒に袖ヶ浦の施設で栗拾いを作った「栗の渋皮煮」がとて好評でした。体験コーナーも憩いの場となりました。

年々、寄附物品を集めることも難しくなり、バザー自体も昔に比べれば大分縮小してきました。しかし、いつもバザーを終える度に、多くの方々の温かい思いや支えを感じさせられ、改めて、地域や関係者の皆様に「嬉泉バザーに来て良かった」と言ってもらえる良いバザーを目指し、私達は今後も工夫や努力を重ねていかなければと思います。

今回も嬉泉後援会の皆様をはじめとして、ご協力いただきました関係者の皆様、紙面をお借りして御礼申し上げます。

（嬉泉バザー実施責任者 樋口美津子）  
\*第五十二回バザーの収益を左記の通り御報告いたします。

| 係     | 収入         |
|-------|------------|
| 献品    | 336,069円   |
| 手芸    | 69,169円    |
| 産直・委託 | 104,869円   |
| 食堂    | 249,129円   |
| 広報    | 33,989円    |
| 後援会   | 169,554円   |
| 総務    | 387,064円   |
| 合計    | 1,349,843円 |



新規事業所

『送迎保育ステーション』と『鎌田のびやか園』

送迎保育ステーションが、今年四月一日にオープンします。昨年発行された嬉泉新聞でお伝えしました通り、この事業は世田谷区において初めての試みであり、今般の世田谷区における待機児童・保育需要の格差を解消すると共に、入園希望保育園の選択肢の幅を広げる効果が期待されていることから世田谷区内外で注目を集めています。

この送迎保育事業とは、送迎拠点となる場所に、保護者は子どもを送迎し、連携先となる同法人内の保育園（すこやか園クジラ・宇奈根なごやか園・鎌田のびやか園）に保護者に代わり、バスで送迎する事業です。子どもたちは、朝夕を拠点となる成城のなごやか園分園成城の一室で過ごし、日中は連携園で活動に参加するといったものです。

現在、なごやか園分園成城に所属する2歳児グループの子どもたちは、3歳児グループに進級する際、この送迎保育事業を利用し、各連携園に進級する形となります。

なごやか園分園成城は、成城の商

店街の中にある住友生命ビルの一階にあり、場所柄自然や公園も少なく、子どもたちにとっては物足りない環境とも言えますが、この送迎保育事業に移ることで、3歳児以降子どもにとって必要な環境が担保されることとなります。

この送迎保育事業に関しては、法人においても初めての試みとなり、不安もあります。子どもたちにとって有益な条件となるよう職員一同努めてまいります。

また、同時期に嬉泉としては、三園目となる認可保育所の本園が開園いたします。この認可保育所は、宇奈根なごやか園より徒歩十分と多摩川流域の田園地帯に近く、二子玉川と隣り合わせの鎌田の住宅に派手主張することなく控え目で地域に溶け込むように立っています。

園名は、地域の希望を反映し、鎌田の地名をとって『鎌田のびやか園』と名付けられました。この『鎌田のびやか園』は、すこやか園・宇奈根なごやか園と同じく、子どもの豊かな成長・発達を形容する言葉を用いており、嬉泉が目指す保育の在り方を園名を通して関係する人々や地域に伝えています。

鎌田のびやか園は、『子どもたちが子どもらしく、のびのびと過ごし、乳幼児期に必要なとされる経験をもつて多くを学び、主体性が育まれる保育』を叶えられるようにと、必要最低限のものは用意しつつも、初めから全ての物を用意せず、子どもたちと暮らす中で、一つ一つ一緒に作り上げていきたいと考えています。



( 鎌田のびやか園 玄関 )

その代表的なものが『何もない園庭』です。見方によっては、粗雑な環境と思われるかもしれませんが、何もない園庭だからこそ、子どもたちが欲しいものを一緒に作っていただけるのではないかと考えています。大人の力量も問われるかもしれません。

が、ゆくゆくは子どもたちにとって他にはない魅力的な遊び場に変わってくれることを願いつつ、私自身も楽しみにしているところです。

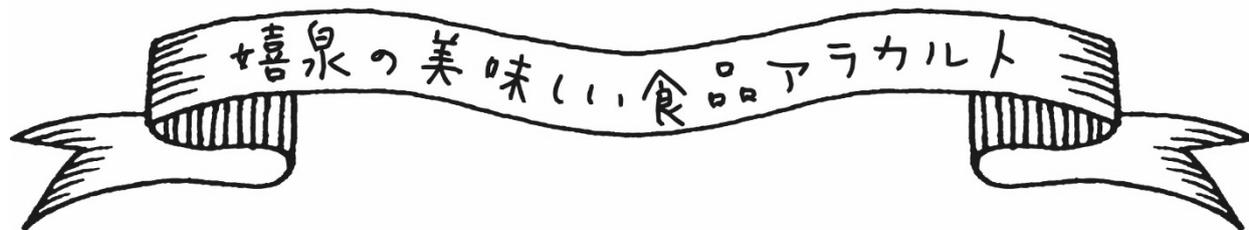
現在は、間近に迫った開園を滞りなく迎えられるように、さらには、この『鎌田のびやか園』で私たちと生活を共にする子どもたち（0歳児5歳児の77名）が安心してのびやかに過ごせるように、開園の準備を進めております。お近くにいらっしやることになりましたら、是非『鎌田のびやか園』とそこで暮らす子どもたちの様子を覗いていってください。

心よりお待ちしております。

(鎌田のびやか園 園長 坂田朗)



( 鎌田のびやか園 園舎 )



嬉泉では、いろいろな事業所でいろいろな自主生産品を作っています。

今回はその中から、袖ヶ浦ひかりの学園と板橋区にある赤塚福祉園の美味しいパンやお菓子などをご紹介します。憩いのひとときに、ご贈答用に是非どうぞ。

★ 袖ヶ浦ひかりの学園



＜菓子工房＞

厳選した材料を使って、すべて手作りで作っています。クッキー・パウンドケーキなどバラエティー豊かな味をご用意しております。



＜潮騒工房＞

伝統ある高級ふりかけ、薫り高い本醸造醤油、しっとりとした佃煮風ふりかけなどをご用意しております。



|           |
|-----------|
| クッキー      |
| 100円～180円 |
| パウンドケーキ   |
| 400円      |

|                                 |
|---------------------------------|
| ご希望にあわせて贈答用の箱詰めもございますのでご利用ください。 |
|---------------------------------|

★ 赤塚福祉園「はばたきラスク」



＜ラスク＞

赤塚福祉園の「はばたきラスク」は焼き上がったこだわりのパンをスライスし、焦がしバターを丁寧にしみ込ませた香ばしい風味に仕上げています。



＜パンから手作り＞

機械を使わず生地は手ごねで作っています。小麦の風味を生かし弾力がありもちりとしたパンに仕上がります。

|                                          |       |
|------------------------------------------|-------|
| シュガー、ガーリック、レーズン、シナモン、ハシッコ、ガリッコ           | 各110円 |
| ハニーラスク、チョコレートラスク、ホワイトチョコラスク、チョコッコ (冬季限定) | 各130円 |

- ★ 価格はすべて税込みです。
- ★ 食品以外にもアトリエ AUTOS のカレンダー・ポストカード・絵画等、赤塚 A T B の創作作品も販売しております！
- ★ ご注文は（袖ヶ浦ひかりの学園TEL0438-62-9121）（赤塚福祉園TEL03-5383-5741）まで！